

100年引き継がれてきた空間を未来へ  
—北九州市旦過市場の環境整備と活性化促進計画—

1240082 関口明日香

指導教員 渡辺菊真

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. 背景

1-1 旦過市場について

旦過市場は福岡県北九州市に位置する。この市場は大正時代の初めに、隣接する神獄川を上る船が荷を揚げ、商売を始めたのが起源であり、100年以上の歴史がある。昭和13年頃に市場が急速に拡大したため、木造の建物が次々と建てられた。特に広範囲で川にせり出す建物は迫力があり、その外観からは、これまで市場が重ねてきた歴史を感じることが出来る。

昔ながらの雰囲気を楽しむことが出来る旦過市場だが、魚町銀天街という商店街が隣接しており、北九州市に住む多くの若者は旦過市場に足を踏み入れることはない。私自身、大学生になるまで旦過市場を訪れたことはなかった。しかし、初めて旦過市場を見たときに、昔ながらの魅力があることを知り、この魅力を多くの人に知ってほしいと感じた。



図 1：旦過市場



図 2：川にせり出す建物

1-2 大規模火災

旦過市場では2022年に2度も火災が発生している。4月に起こった1度目の火災では42店舗、8月に起こ



図 3：旦過市場の火災[1]

った2度目の火災では45店舗が焼け、どちらの火災も消火活動は長時間に及んだ。その理由は、木造密集地域であったこと、そのほとんどがトタン屋根で水が火に届きにくかったことである。旦過市場の建物はほとんどが木造トタン屋根であるため、次に火災が発生したときには2022年同様大規模な火災になることが予想される。現在火災跡では、瓦礫はほとんど撤去され、4月の火災で出来た空き地にはプレハブが並び、被害に遭った店舗が

移転する場所となっている。8月の火災跡は空き地のまま放置され、仮囲いでおおわれている。また、囲いの隣にあった旦過市場の駐車場も現在は閉鎖されており、旦過市場を訪れる人は少し離れた民営の駐車場に駐車して、徒歩で市場まで向かわなければならない。



図 4：4月の火災跡



図 5：8月の火災跡

1-3 北九州市による旦過市場再整備計画

現在、市により、旦過市場は再整備計画が立てられている。工事は令和6年度から始まる予定である。この計画では、旦過市場の建物をすべて取り壊し、新しく立て直す。旦過市場の老朽化や、防火の問題を解決し新しい魅力を生み出そうとする計画であるが、一方、昔から引き継がれてきた旦過市場の良さがなくなってしまう。



図 6：再整備計画イメージ図[2]

1-4 現在における旦過市場の構成

旦過市場には、様々な空間の魅力があり、その空間の特徴によって「メイン通り」「ディープエリア」「火災跡地」の3つにゾーン分けすることが出来る。



図 7：空間のゾーニング[3]旦過市場マップにエリアを追記して掲載  
■「メイン通り」



図 8：買い物をする客



図 9：賑わうメイン通り

両サイドに精肉店・鮮魚店・青果店など、昔ながらの店が並び、市場の中で一番人通りが多い。メイン通りを歩くと、両側の店から呼び込みの声が聞こえてくる。観光客も多く、思わず写真を撮りたくなるような魅力がある。

■「ディープエリア」

メイン通りを外れたところにあり、通路を古い木造の建築物が挟み込んでいる。メイン通りからディープエリアに行くための入り口は2つあり、その通路はどちらも天井が低い。更に、奥に広がる空間は薄暗く、入り口の低さと相まって近寄りたがたい雰囲気が漂う。また、ディープエリアの店舗はほとんどが建物の老朽化などの影響で閉店しており、シャッターが閉まっている。中には、もぬけの殻になった内部がそのまま残っている所もあり、活気あるメイン通りとは違った、ディープな魅力がある。



図 10：低い天井の入り口



図 11：もぬけの殻になった店舗(写真左)

■「火災跡地」

火災によって、かつてあった昔ならではの魅力は失われてしまった。しかし、瓦礫が撤去された空き地には火災の被害に遭った店舗が入るためのプレハブが並んでいる。天井がないため空が広がり、開放的で新しい空間が生み出されている。

2. 目的

本設計では、且過市場が抱えている「若者が立ち寄らない」「防火対策」という課題を解決しつつ、市場が持つ昔ながらの魅力を引き出す改修計画を提示することを目的とする。

これにより、北九州市が計画している「再整備計画による、引き継がれてきた魅力の消失」という問題を解決し、100年引き継がれてきた空間を未来へ継承する。

3. 設計

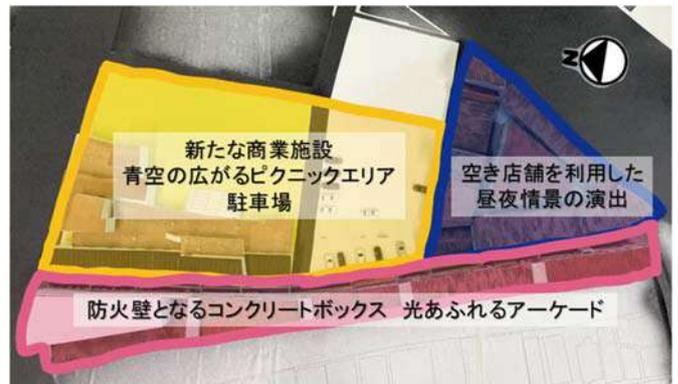
3-1 設計の指針

- I 新築ではなく、改修を中心とすることで魅力を引き継ぐ
- II 火災時の延焼を防止する
- III 若者が立ち寄るきっかけを作り、集客力を向上させる

3-2 設計の内容

■ゾーニング

且過市場を空間の特徴ごとに3つのゾーンに分ける。メイン通り、ディープエリアは改修とし、火災跡地のみ新築とする。



■メイン通り ■ディープエリア ■火災跡地

図 12：空間のゾーニング模型写真

■メイン通り改修計画

①防火壁となるコンクリートボックス



図 13：防火壁となるコンクリートボックス模型写真

川にせり出した長い建物に防火壁を設け、火災発生時に火が広がるのを防ぐ。防火壁は、約 30mの間隔で配置し、厚み 300mmの鉄筋コンクリートによるボックス型の空間である。床面積は 3×5mである。防火壁空間は計 4 か所あり、市場で買ったものを食べることが出来る飲食スペース(2 か所)、且過市場の歴史について学ぶことが出来るミニ資料館、ポップアップなど期間限定でお店を出すことが出来るフリースペースの3種類の利用方法がある。すべてのボックス内部から、且過市場の起源である神獄

川を望むことが出来る。この防火壁は、「今まで切り離されていた市場と神獄川をつなぐ架け橋」「且過市場を訪れた人の休憩スポット」「火災時の延焼防止」の3つの役割を持つ。

## ②光あふれるアーケード



図 17: 改修後のアーケード

現在メイン通りにかかっているアーケードは光が届かないものである。ディープエリアの暗い雰囲気との対比を図るため、本設計ではガラス張りのアーケードに変更する。この時、現在かかっているアーケードの構造体を使うことによって、空間・魅力の継承を図る。

## ■ディープエリアの改修計画

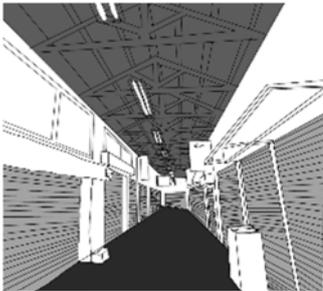


図 18: 昼間のディープエリア



図 19: 夜間のディープエリア

シャッターが閉まったままになっており、内部が暗いディープな雰囲気が醸し出されているのが、このエリアの魅力である。

### ①空き店舗を利用した、昼夜情景の演出

ディープエリアに多く見られる空き店舗を整備し、居酒屋やバーなど夜だけ営業する店舗を入れた。これによって、昼間に訪れた人は現在と同じシャッターが閉まった空間を体感することが出来る。夜に訪れた人は、明かりがとまり、人でにぎわう空間を体感することが出来る。

### ②防火対策

ディープエリアの魅力を壊さないよう、スプリンクラーの設置や梁や柱の補強など、最低限の防火対策を施した。

## ■火災跡エリア

火災によってかつての魅力は失われてしまったが、青空の広がるこのエリアでは、新たな魅力を生み出すことが出来る。

### ①新たな商業施設



図 20 新たな商業施設模型写真

火災跡には3階建ての商業施設を新設する。この商業施設には34店舗出店することができ、火災の被害に遭った店舗や新規の店舗が入る。

### ②青空の広がるピクニックエリア



図 21: 青空の広がるピクニックエリア

施設の横には芝生を敷いたピクニックエリアを設ける。ピクニックエリアでは、且過市場や隣の商店街で、テイクアウトしたものをピクニック気分で楽しむことが出来る。

新たな店舗や、ピクニックエリアを作ることによって若者が且過市場に足を踏み入れるきっかけとなる。

## ■各エリアの関わり方

各エリアはそれぞれ関わり合い且過市場の魅力を強調する。

### ①メインエリアとディープエリア

メインエリアは早朝からお店が開店し、午後5時頃に閉店する。一方でディープエリアは午後5時ごろから開店し、深夜まで営業する。異なる時間帯に営業することでどの時間に来ても楽しむことが出来る市場となる。

メインエリアのアーケードをガラス張りにし、明るくしたことでディープエリアの暗さが際立つ。更に、夜はディープエリアからの明かりや声がメイン通りに漏れる。メイン通りを通った人に、中に何があるのか興味を抱かせる。



図 22 明るいメイン通りと 暗いディープエリア

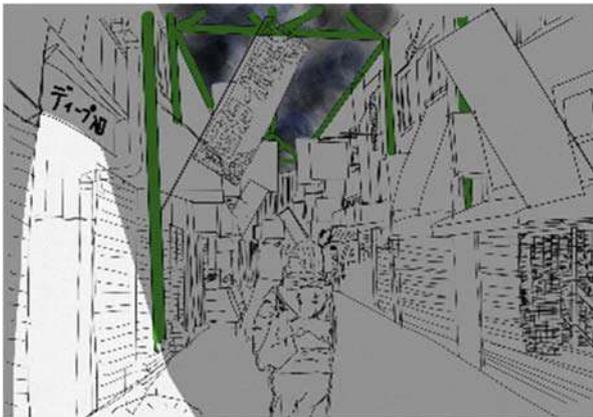


図 23 暗いメイン通りと明るいディープエリア

## ②メインエリアと火災跡

火災跡にある新たな商業施設は、メイン通りから見ると独立店舗がいくつも並んでいるように見える。これにより、火災前の店が両側に並んでいる様子を思い出させることが出来る。一方で、新たな魅力を生み出していく場所となることを表現するために、若者が多く集まる広場から見た商業施設は平面ではなく、ぼこぼことしていて、メイン通りから見るとは違う建物に見えるようにした。



図 24 メイン通りから見た商業施設



図 25 ピクニックエリアから見た商業施設

## 4. まとめ

市による再整備計画のように今ある市場を取り壊し、新しい市場を作ることはさらなる集客を生み出すが、歴史が生み出した魅力は消滅してしまう。本設計では改修を中心とすることで、集客力のアップと歴史が生み出した魅力の継承のどちらも可能とすることが出来た。

## 5. 参考文献

- [1] 防災システム研究所公式ホームページ 令和 4 年 (2022 年) 4 月、8 月 且過市場火災 連続火災 現地調査写真レポート <https://www.bo-sai.co.jp/tanga.htm>
- [2] 且過市場ホームページ TANGA REBORN PROJECT [https://www.tangaichiba.jp/wp-content/uploads/2022/03/Tanga\\_Reborn\\_Project.pdf](https://www.tangaichiba.jp/wp-content/uploads/2022/03/Tanga_Reborn_Project.pdf)
- [3] 且過市場マップ
- [4] 且過市場ホームページ 且過市場の生き立ち <https://www.tangaichiba.jp/about/about01/>